

## 都市交通調査の深度化に向けた検討委員会 設立趣旨

都市交通調査の代表的な調査手法であるパーソントリップ調査は、交通実態の把握・分析や将来交通需要の予測に用いられ、我が国の都市政策や交通政策の根幹を支えてきた。しかし、近年はテレワークや EC の進展等により、移動を伴わない活動や場所に縛られない活動が増加するなど人々の活動と移動が多様化しており、これらに対応した調査手法への改善やシミュレーション技術の開発等が求められている。さらに、地方公共団体が取り組む施策は多様化しつつあることから、それぞれの地域のニーズに応じた都市交通調査を自由度高く設計し、実施できるようにすべきである。

従来の都市交通調査において、都市交通施策の検討に活用されてきたシミュレーション技術は、将来交通需要の推計を目的とした手法である。一方、アクティビティ・ベースド・シミュレーションは、個人単位で活動や移動を推計するため、外出率、活動時間、移動時間など、都市交通施策が個人の生活や活動にどのように寄与するのかを把握できるようになり、交通需要以外の面からの政策目的への効果などが定量的に評価可能となることから、施策評価手法の新たな選択肢として、アクティビティ・ベースド・シミュレータの開発に取り組むべきである。

また、小標本でパーソントリップ調査を実施した都市圏向けに、アクティビティ・ベースド・シミュレータと小標本のパーソントリップ調査やビッグデータ等を連携させることでより詳細な地域分析を可能とする調査手法の構築に取り組むべきである。さらに、調査の実施自体が難しい小規模な都市圏向けに、全国都市交通特性調査の結果を用いて、一定の都市規模毎に構築したシミュレーションモデルにより、必要な施策検討に活用可能な疑似データを生成することができる可能性があり、この検討も進めるべきである。

このような状況を踏まえ、全国都市交通特性調査の結果を用いたアクティビティ・ベースド・シミュレータのあり方等を検討し、効率的で多様な都市交通調査手法の構築に寄与するため、有識者からなる検討委員会を設立するものである。